



わ 031
36
8止

頭書増補訓蒙図彙

廿九
正九



○桐の葉はつ
あつ葉三ま
ありあらねた
ひら子といふ
をそ白桐といふ

桐
とうり



桐
とうり

○杉の葉はつ
あつ葉三ま
ありあらねた
ひら子といふ
をそ白桐といふ

杉
すぎ



杉
すぎ

○檜の葉はつ
あつ葉三ま
ありあらねた
ひら子といふ
をそ白桐といふ

檜
ひのき



檜
ひのき

○松の葉はつ
あつ葉三ま
ありあらねた
ひら子といふ
をそ白桐といふ

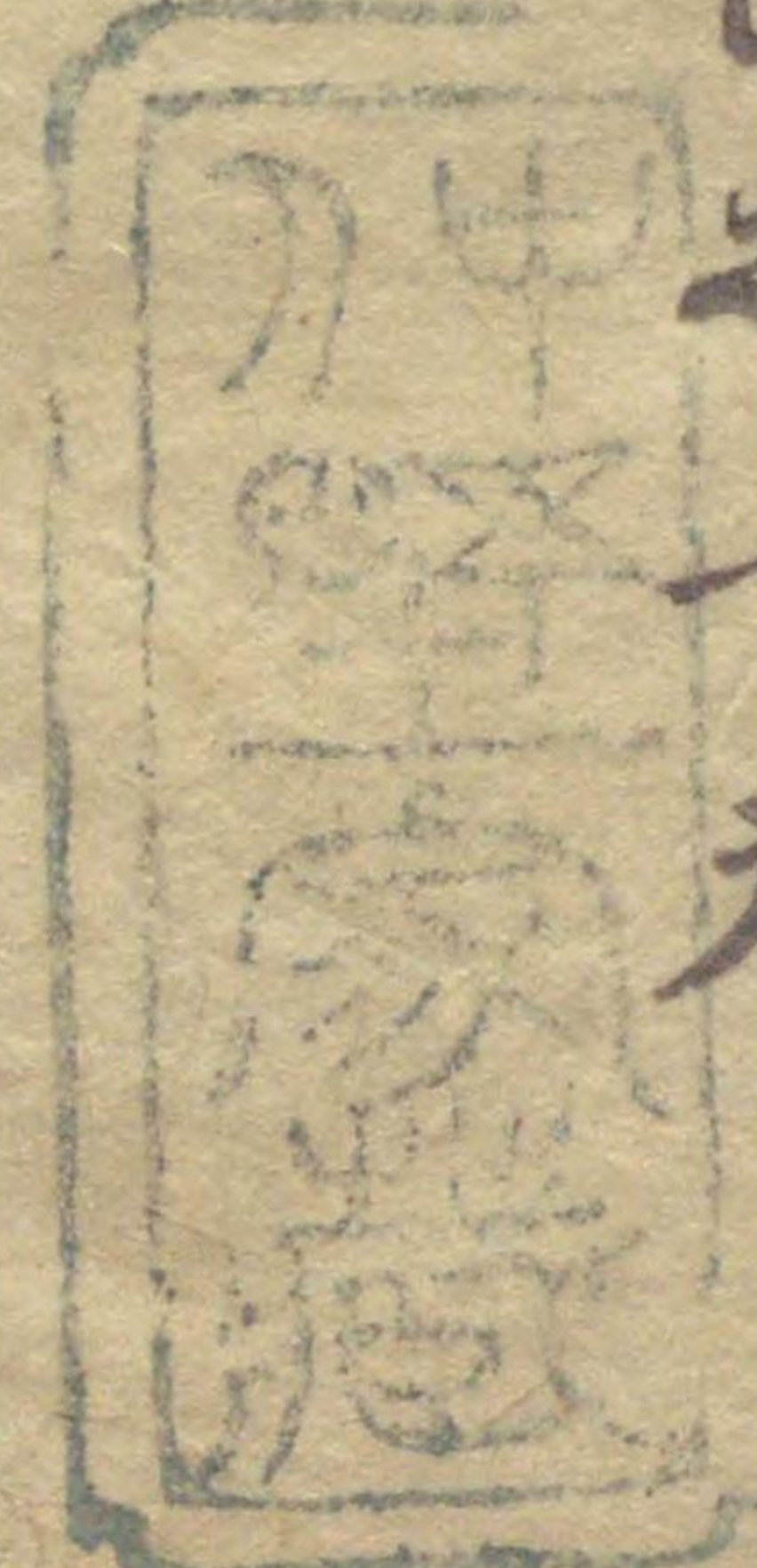
松
まつ



樹竹
じゆちく

はすのえ
と記す

頭書増補訓蒙圖彙卷之十九



A 31
9



○楸 いぶき 花をそく
く記す所
文をそいへし
文偶々之と飛
節しふ

楸 いぶき

○楸 いぶき 皮をろく
葉様子を花
標しより六月
にさきて行ふ

楸 いぶき

○櫻 さくら 一名は朱
桃一名は麦葉と
いふ花しつら
いさうめは
文と標しつら

○榊 さかき 一名は
榊樹とらふ實と
標しつら

榊 さかき

○楸 いぶき 花をそく
く記す所
文をそいへし
文偶々之と飛
節しふ

楸 いぶき

○楸 いぶき 花をそく
く記す所
文をそいへし
文偶々之と飛
節しふ



○棟 むね 花をそく
く記す所
文をそいへし
文偶々之と飛
節しふ

棟 むね

○榎 えのき 花をそく
く記す所
文をそいへし
文偶々之と飛
節しふ

榎 えのき

○榎 えのき 花をそく
く記す所
文をそいへし
文偶々之と飛
節しふ

○榎 えのき 花をそく
く記す所
文をそいへし
文偶々之と飛
節しふ

榎 えのき

○柳 やなぎ 花をそく
く記す所
文をそいへし
文偶々之と飛
節しふ

柳 やなぎ

○榎 えのき 花をそく
く記す所
文をそいへし
文偶々之と飛
節しふ



楮コ

楮の皮の紙
につらぐし
うそとふん
衛のひま

柴シ

柴の小木散材
俗名

薪シ

薪はたきあり
粗と薪との細
うと蒸との支
つた

篁サ

篁の竹の節
ありたけつと
よ

籬シ

籬はさつと
竹實あり二名の
竹米とよ

篠シ

篠の小竹あり
篠の皮と篠の
さつとよ

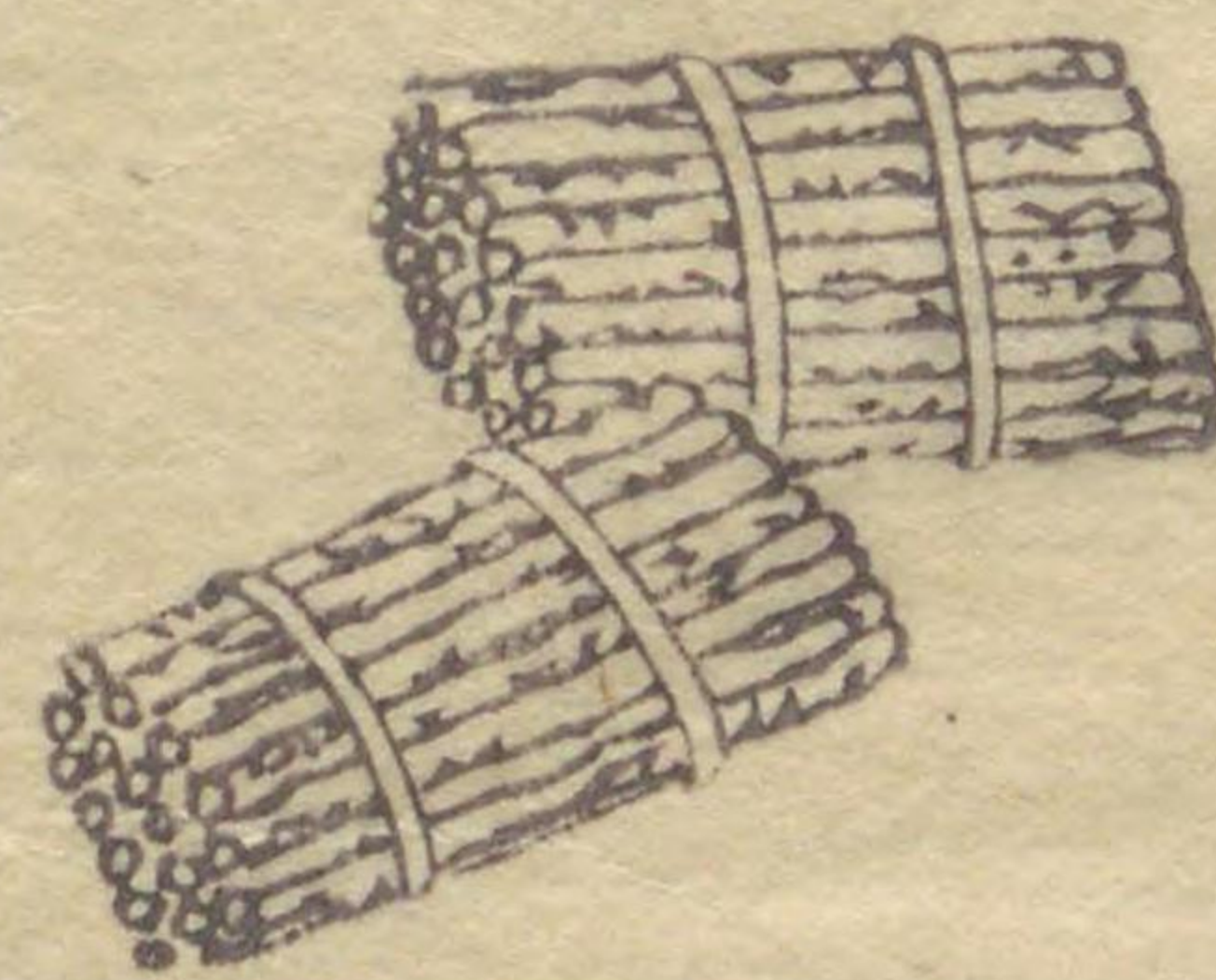
楮コ



柴シ



薪シ



篁サ



籬シ



篠シ



穀コ

穀の皮の中と
よの皮とよ
穀とよ
印の谷とよ

楮コ

楮の木の皮
はく物とよ
穀の皮は五月
子たき

棘シ

棘の木の皮
はく物とよ
木とよ
はく物とよ

炭シ

炭の木の皮
はく物とよ
鳥の皮とよ
炭の皮とよ

柵シ

柵の木の皮
はく物とよ
柵の皮とよ
柵の皮とよ

籬シ

籬の木の皮
はく物とよ
籬の皮とよ
籬の皮とよ

穀コ



楮コ



棘シ



炭シ



柵シ



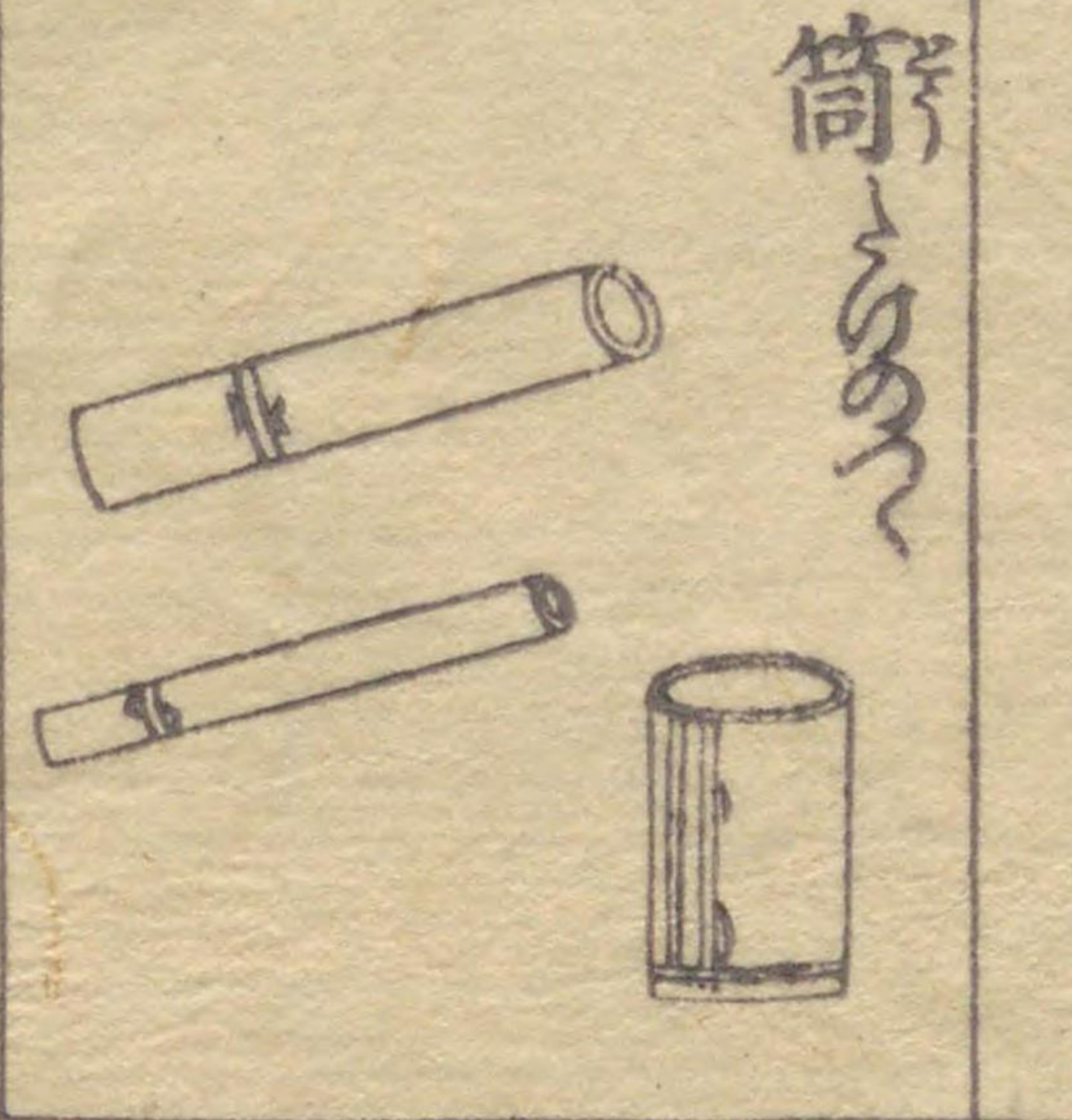
籬シ



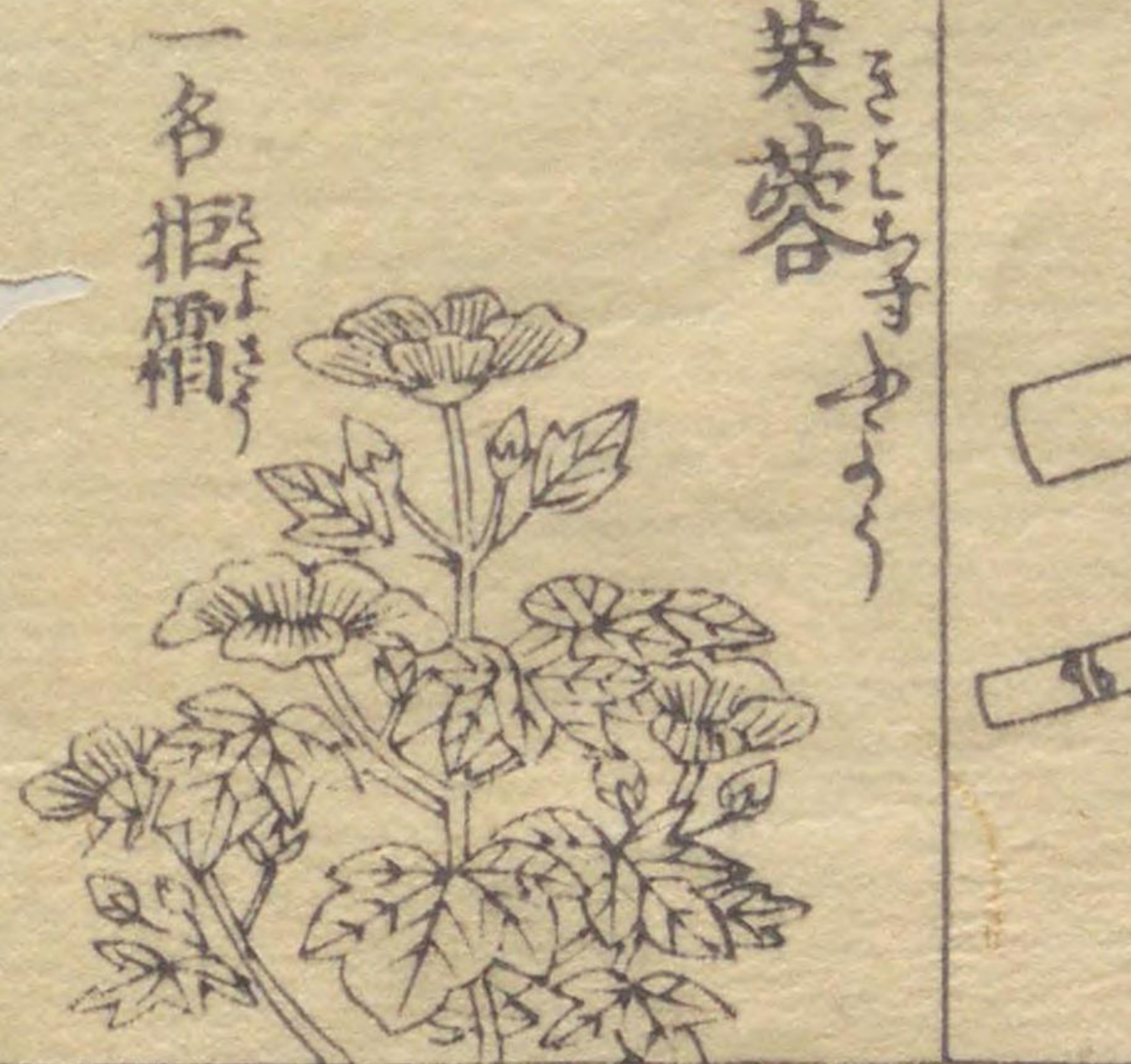
○筋の革同
 腸を利し痰と
 消し胃とささる
 に水道とつじ
 氣とさす



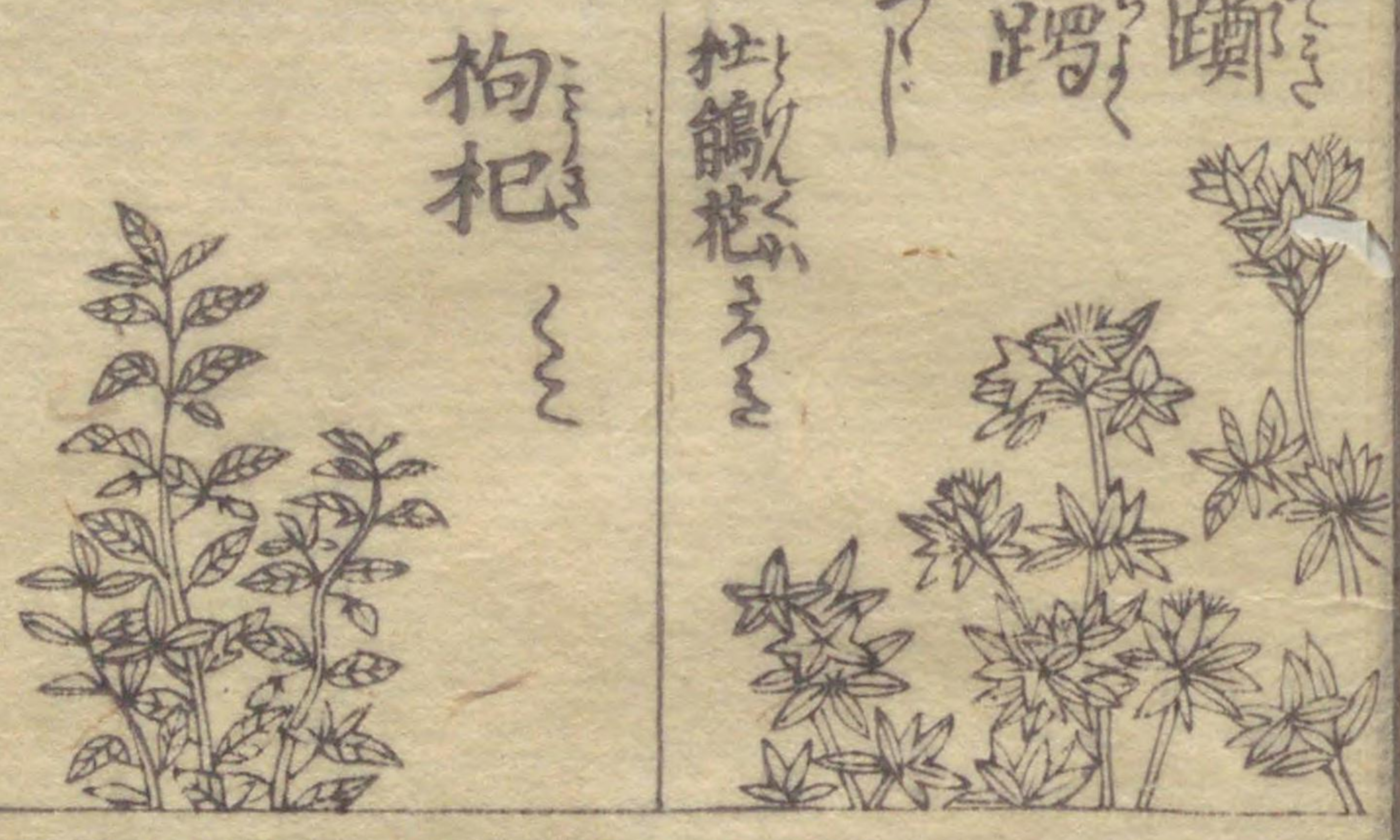
筒の竹の皮
 筒同竹節と
 けりや



芙蓉
 ○芙蓉ハ水子生
 かろと水芙蓉と
 つし荷花あり木
 に生るると木芙蓉
 蓉のふ秋たこ



○躑躅の皮を
 のく羊とれと
 くの躑躅して
 死をふてま
 まんげつ
 枸杞



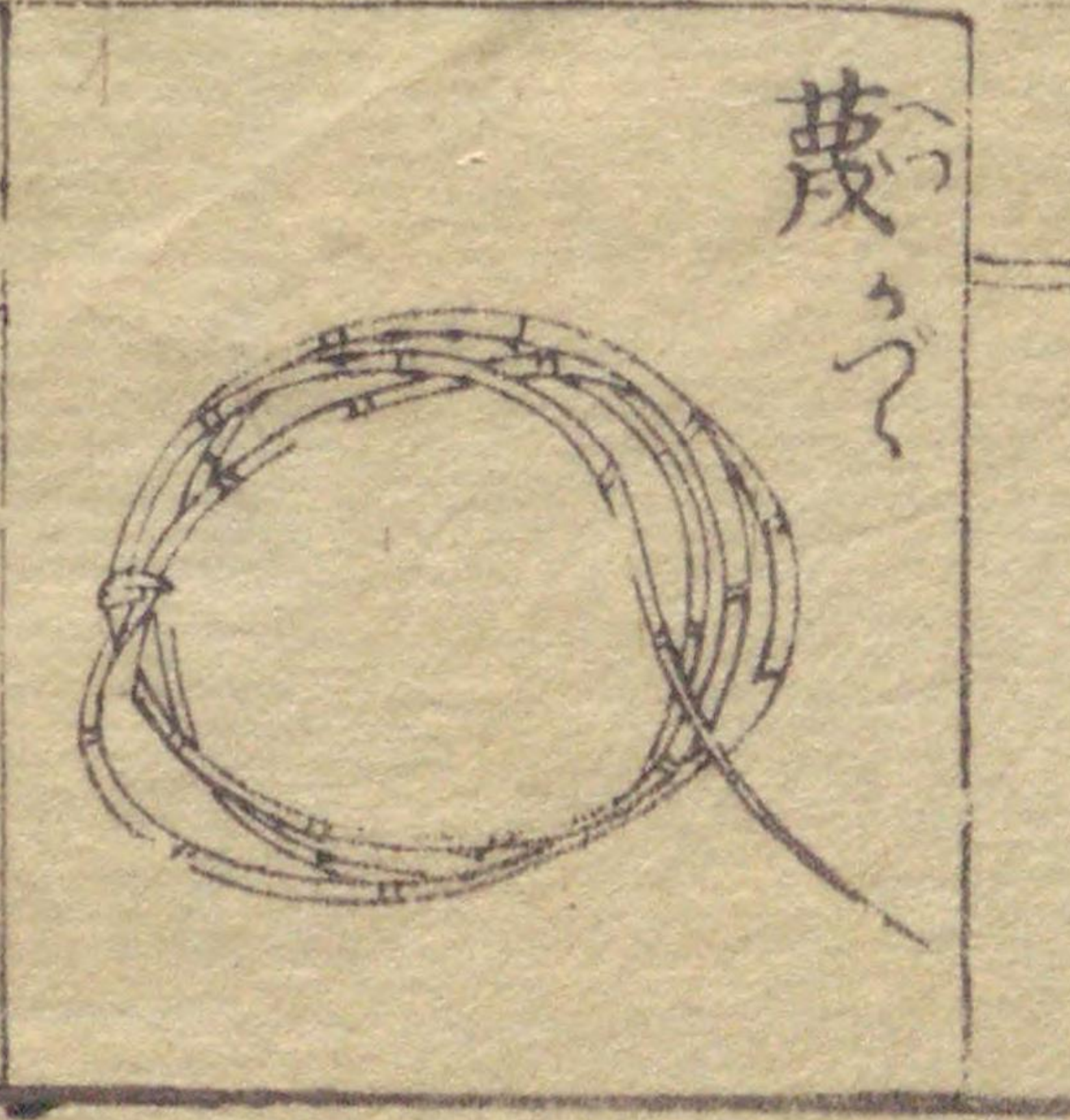
○五加ハ蔬すの
 らりてくくハ皮
 膏の風湿とこ
 ん五佳五花同



○作ハ六十一粒
 あり六十年に
 一ふかろる花
 ありてくれ多と
 うそ又生き



蕨
 蕨ハ木のあそり
 の後子まうつ
 蜜蝋同



梅檀
 ○梅檀ハ木ハ
 槐のくく皮あそ
 一後子棟と色
 んくんとふ黄
 白紫赤の別と



○椋桐ハ六七月
 に黄白と生
 八九月に実とむ
 まんで房とま
 魚子のま
 厚朴



○辛夷ハ木柿
 の葉にてま
 あり花ハ白と
 ひくたあり
 乾蕨



幹 木の心あり
くまのふ

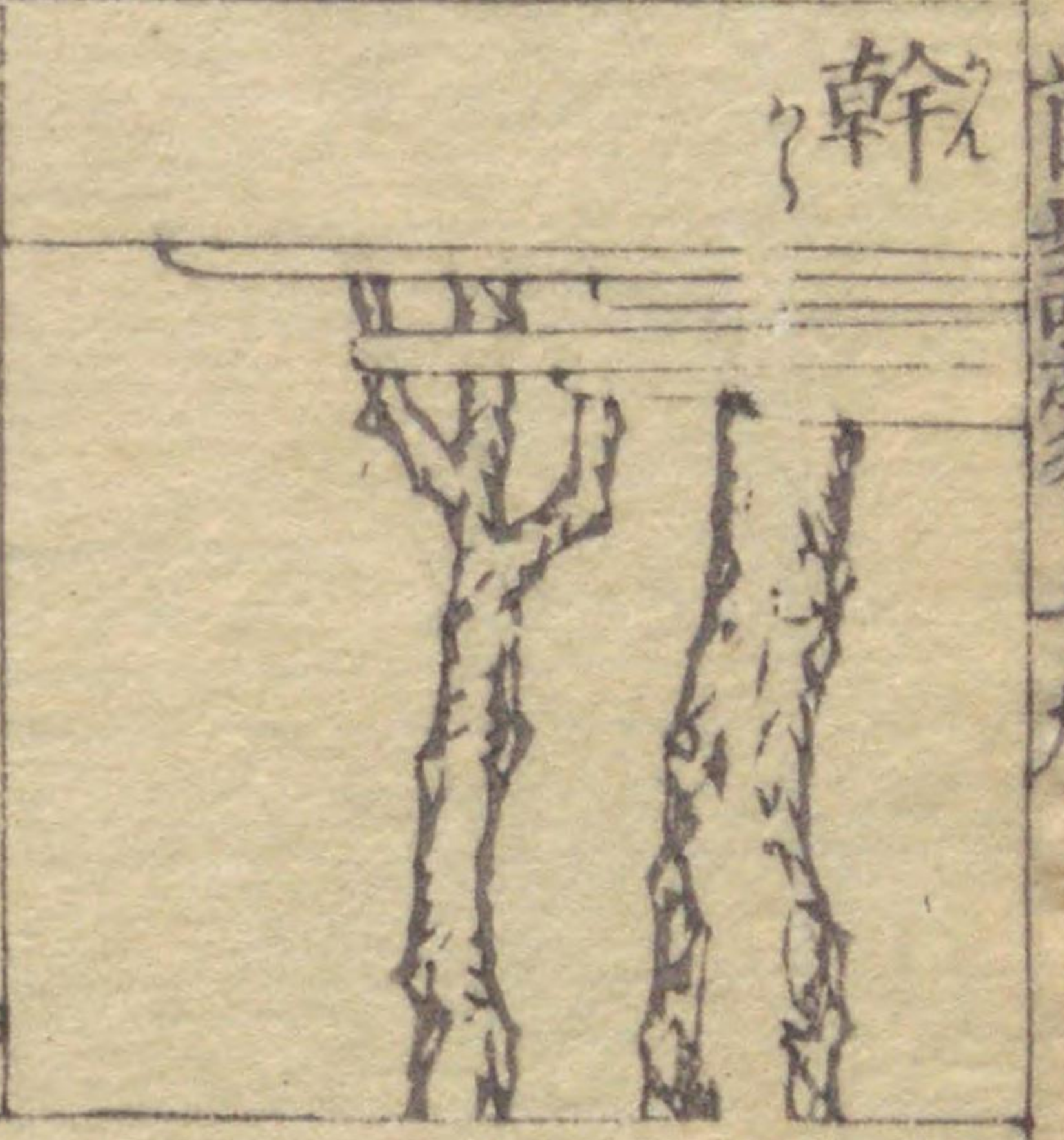
梢 木のこま
梢の木のこまを
のり根同

株 木のこま
株のくませあり
俗云りふん土
入と根との土
とのはうと株と
の

粉圓の花白
ての球乃
玉のこま
にひく玉枝花
とと球花は云
紫陽

紫陽 花のこま
さねふして花
と生を球花は云

瑞香 花のこま
○瑞香の枝のこま
に葉あつて花
ひくくま三四分
くら下香のこま
く美美白花は云



枝 木のこま
枝の木のこまを
柯同細さ枝と
條のふんをえ
樹のまこと幹と

葉 木のこま
葉の木のこまを
頼葉のこまを
葉のふんをえ
まこと病葉と

根 木のこま
根の木のこまを
根のおの根あり
根同根と

芽 木のこま
○芽の草のこま
芽のこまを
芽のこまを

薬 木のこま
○薬の木のこま
薬のこまを
薬のこまを

山茶 木のこま
○山茶の木のこま
山茶のこまを
山茶のこまを



○梧桐の皮をく
くろく皮ふたを
花の黄みして
らうー櫨同



紫葳

○紫葳の葉小に
して花はくさく
去花ひたれ子
ある実を玉珠と
す



楊櫃

○楊櫃の葉は
く木黄あり実
はくさくさく
茨とわて空疏同



石櫃

○石櫃の葉は
くさくさく
くさくさく
くさくさく



野漆

○野漆の葉は
くさくさく
くさくさく
くさくさく



仙栢

○仙栢の葉は
くさくさく
くさくさく
くさくさく



○海棠の葉は
くさくさく
くさくさく
くさくさく



紫葳

○紫葳の葉は
くさくさく
くさくさく
くさくさく



紫葳

○紫葳の葉は
くさくさく
くさくさく
くさくさく



角楸

○角楸の葉は
くさくさく
くさくさく
くさくさく



圓栢

○圓栢の葉は
くさくさく
くさくさく
くさくさく



合歡

○合歡の葉は
くさくさく
くさくさく
くさくさく



○魁 葵の葉の根
のよく枝より
ふたひく息角
引しとす



○黄楊 楊の葉の根
のよくわきわの
花さうぞ実
あつと四季あが
めん



○女貞 女貞の葉の根
のよくわきわの
花さうぞ実
あつと四季あが
めん



○冬青 冬青の葉の根
のよくわきわの
花さうぞ実
あつと四季あが
めん



○衛矛 衛矛の葉の根
のよくわきわの
花さうぞ実
あつと四季あが
めん



○狗骨 狗骨の葉の根
のよくわきわの
花さうぞ実
あつと四季あが
めん



○木蘭 木蘭の葉の根
のよくわきわの
花さうぞ実
あつと四季あが
めん



○接骨 接骨の葉の根
のよくわきわの
花さうぞ実
あつと四季あが
めん



○木樨 木樨の葉の根
のよくわきわの
花さうぞ実
あつと四季あが
めん



○石南 石南の葉の根
のよくわきわの
花さうぞ実
あつと四季あが
めん



○楠木 楠木の葉の根
のよくわきわの
花さうぞ実
あつと四季あが
めん



○榆 榆の葉の根
のよくわきわの
花さうぞ実
あつと四季あが
めん



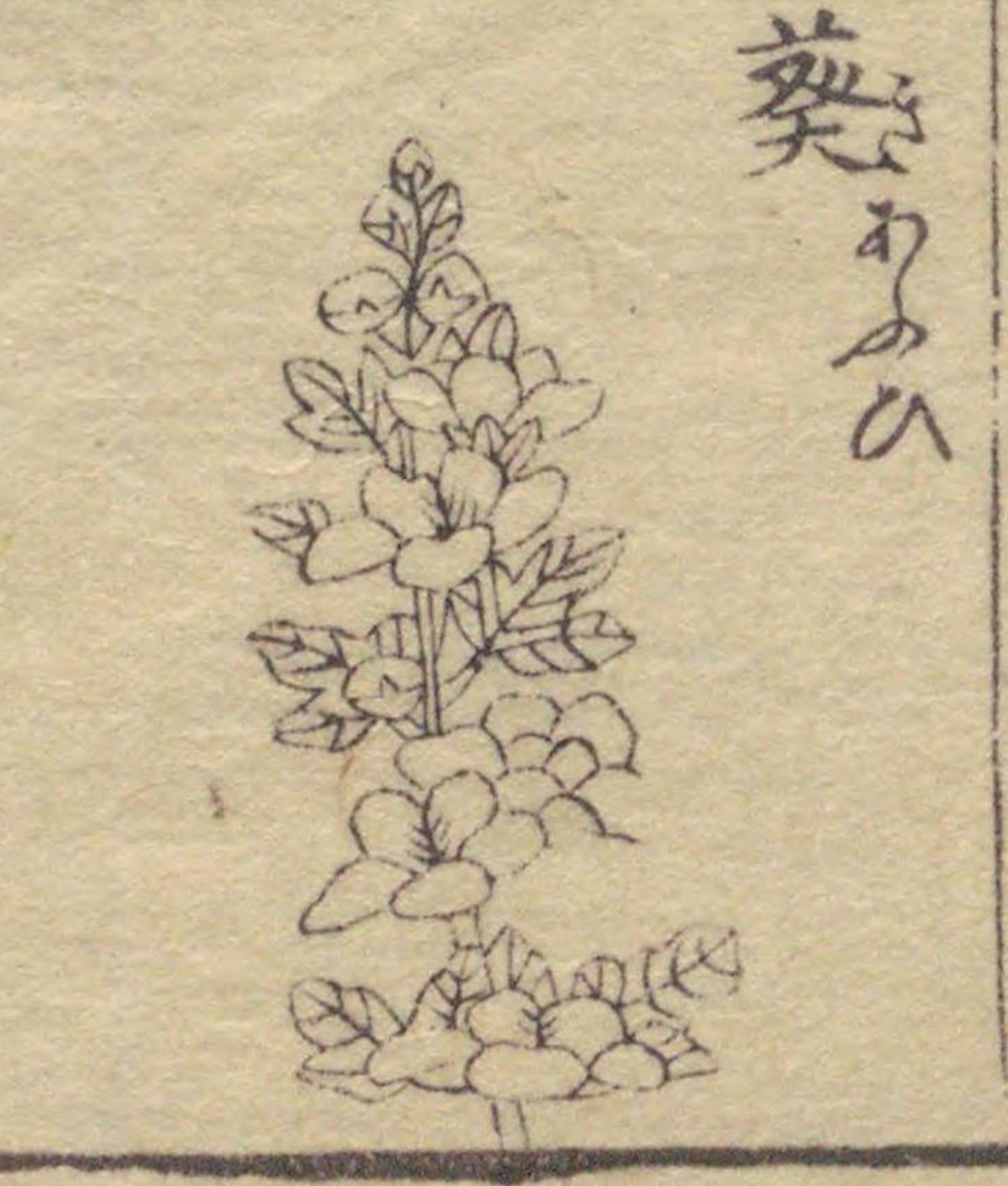
頭書増補訓蒙圖彙卷之廿

花草
け部にいこちくれ草

○藺の莖のうら
さた子葉をとり
こ水漬のかかり
に生て死葉白
しとわづら



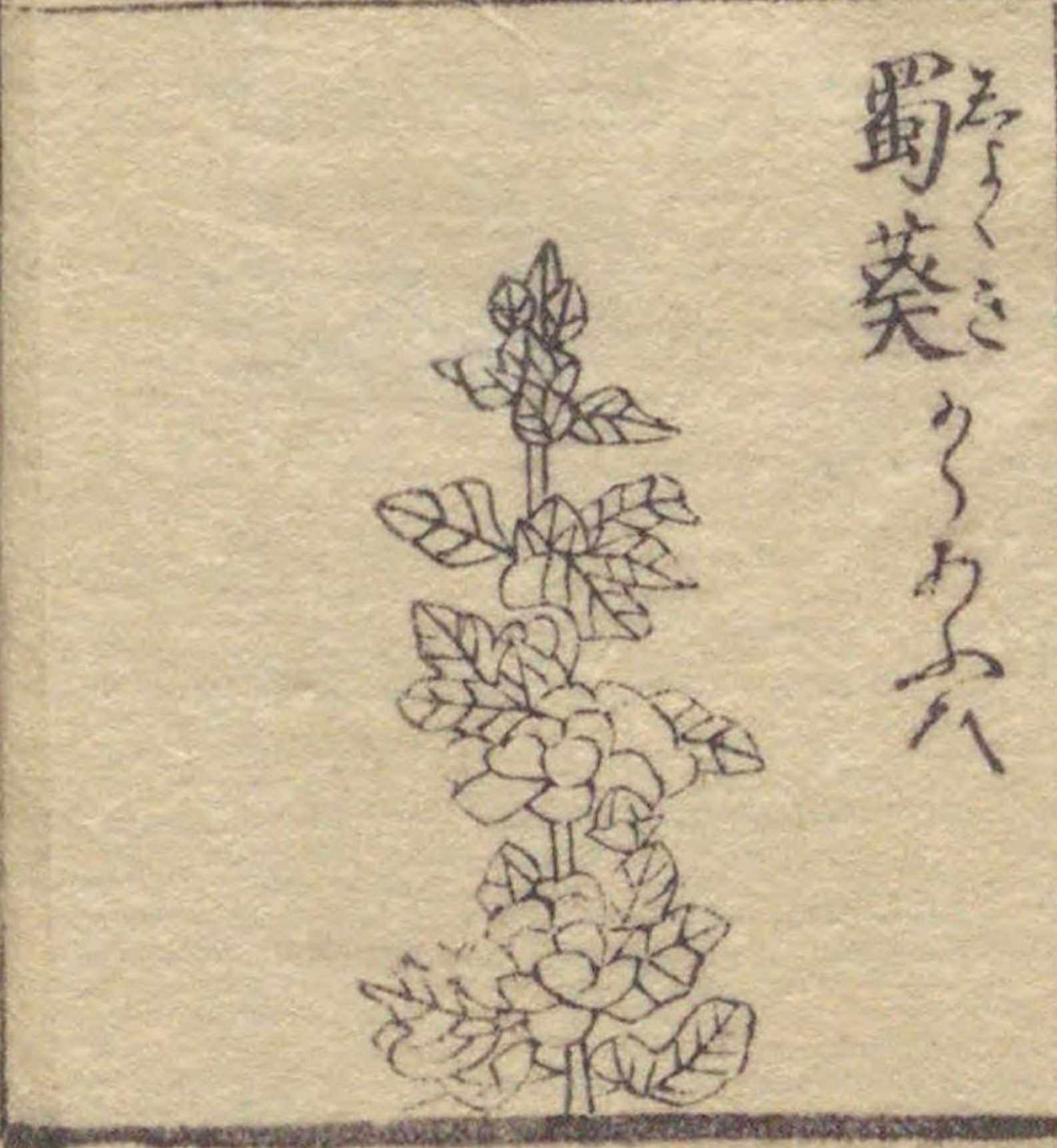
○藺の葉をわひ
に花らひくまひ
らきた又いあ
実い大さ指の
くまうまて痛



建藺の今の青
藺より一子蕙
花とていふ又鉄
脚藺とていふ



蜀葵はくわひ
あり藺葵同又
戎葵とていふ



○艾の葉は血を
血と治しその
いこちとあつた
まんじり草
灸草水基並同



錦葵はくわひ
荆葵同



○菘の白葉あり
油かきしえの
わづらとふ



藍はくわひ
にこり五六月に花
ひくちこれいん



○紅の莖わく
しと毛わり葉の
まうとこれいん
美い小葉の



○藺の百種あり
花も数品わり必
痛目とあまうら
に一年とあぶ葉
ふれ花とあま

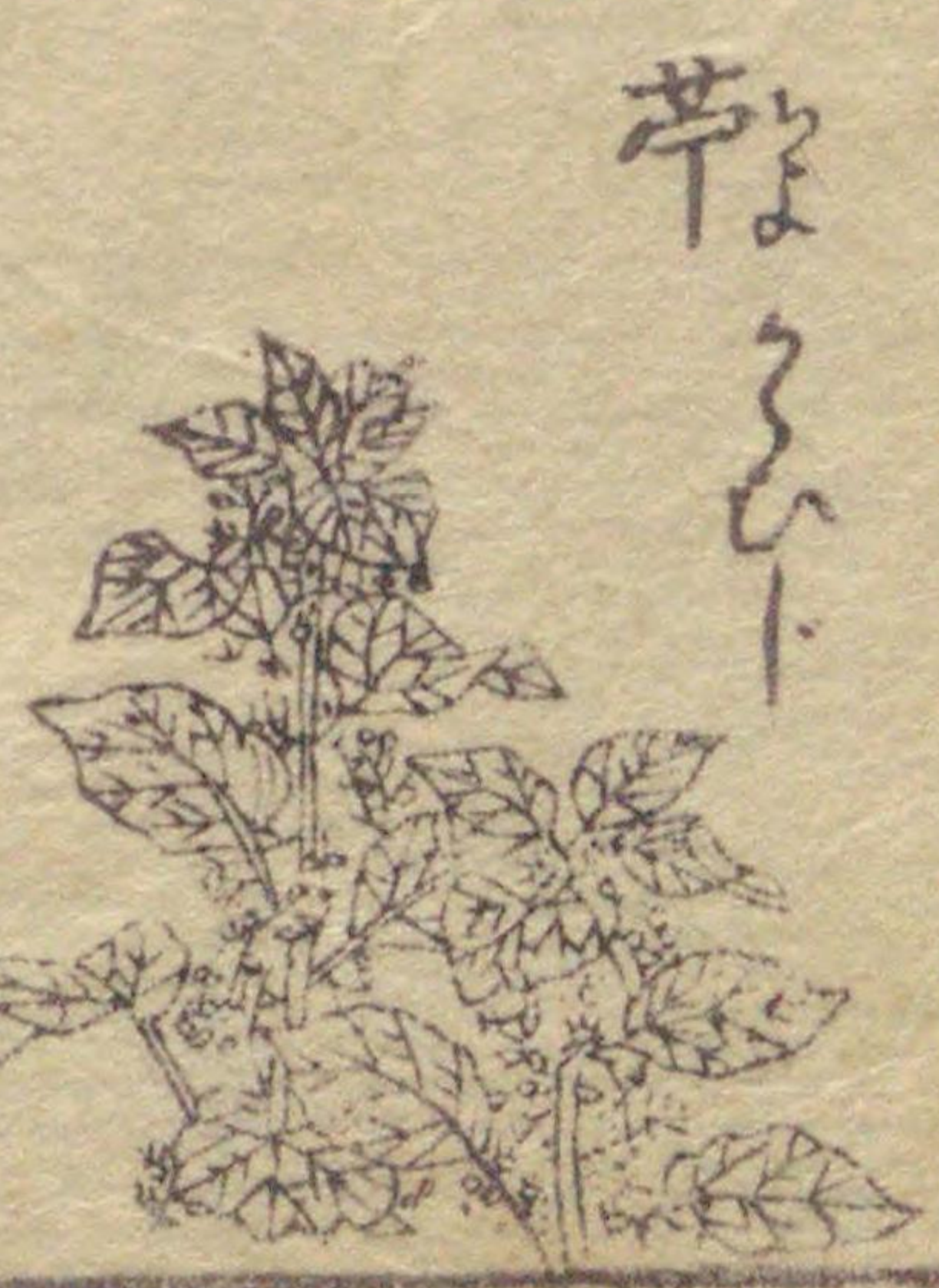


8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8 9 190 1 2 3 4 5 6 7 8 9

○蘇の皮を煎じて葉を煮て火にかけて蘇の皮を煎じて葉を煮て火にかけて



○蘇の皮を煎じて葉を煮て火にかけて



○蘇の皮を煎じて葉を煮て火にかけて



○蘇の皮を煎じて葉を煮て火にかけて



○蘇の皮を煎じて葉を煮て火にかけて



○蘇の皮を煎じて葉を煮て火にかけて



○蘇の皮を煎じて葉を煮て火にかけて



○蘇の皮を煎じて葉を煮て火にかけて



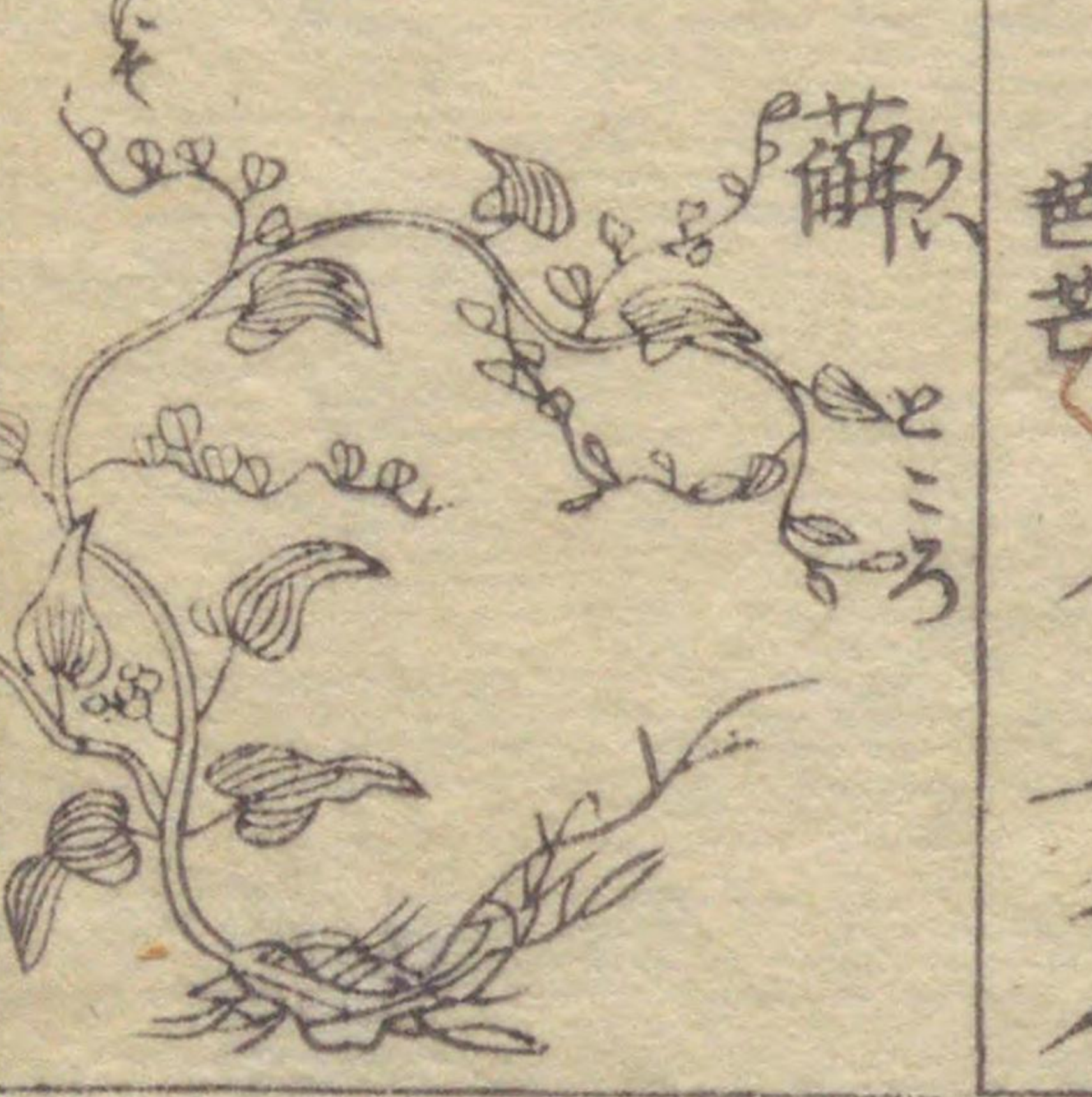
○蘇の皮を煎じて葉を煮て火にかけて



○蘇の皮を煎じて葉を煮て火にかけて



○蘇の皮を煎じて葉を煮て火にかけて



○蘇の皮を煎じて葉を煮て火にかけて



○酸漿 五月に
りる花 白花と生
るも美し 下に
りて 燈籠の
しるて 燈籠草
と云ふ

○桔梗 花は
さかへ 多れ 多く
ひくく 又 梗草と
云く

○菫 花は
水邊の
下 生る 葉は 花
の 下 生る 花
あり 一す たり



○射干 花は
さかへ 多れ 多く
ひくく 烏 鶯 鳥 鶯
かみ 同

○鴨跖 花は
さかへ 多れ 多く
ひくく 烏 鶯 鳥 鶯
かみ 同

○射干 花は
さかへ 多れ 多く
ひくく 烏 鶯 鳥 鶯
かみ 同

○鴨跖 花は
さかへ 多れ 多く
ひくく 烏 鶯 鳥 鶯
かみ 同



○紫葳 花は
さかへ 多れ 多く
ひくく 又 梗草と
云く

○紫葳 花は
さかへ 多れ 多く
ひくく 又 梗草と
云く

○紫葳 花は
さかへ 多れ 多く
ひくく 又 梗草と
云く



○牡丹 花は
さかへ 多れ 多く
ひくく 又 梗草と
云く

○牡丹 花は
さかへ 多れ 多く
ひくく 又 梗草と
云く

○牡丹 花は
さかへ 多れ 多く
ひくく 又 梗草と
云く



8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8 9 190 1 2 3 4 5 6 7 8 9

地層
○地層は土の多き
老の帝同
帝同



菖蓄
○菖蓄は三月
に生えたる花
と生えたる花
と生えたる花



夏枯
○夏枯は野に
生えたる花
と生えたる花
と生えたる花



苗
○苗は草の
しきりつと
苗とふ



臺
○臺は草の
しきりつと
臺とふ



忍冬
○忍冬は木
とふ葉あり
あり三四月に花
さく



蕙
○蕙は花の
と生えたる花
と生えたる花



陵苜
○陵苜は木
と生えたる花
と生えたる花



芭蕉
○芭蕉は草
と生えたる花
と生えたる花



菖蓄
○菖蓄は草
と生えたる花
と生えたる花



薔
○薔は草
と生えたる花
と生えたる花



花片
○花片は草
と生えたる花
と生えたる花



190 1 2 3 4
180 1 2 3 4 5 6 7 8 9
170 1 2 3 4 5 6 7 8 9

莖はくさりの葎
同莖の葉と苞
とつらつらあり
草根と葉と云
くこれ株



莖の花乃とん
蕊葉ありひよ
同又花心と云



葎はくさりの葎
花帯花拵あり
ひよ同



鳳仙花
白のさきあり花
葉白紅紫藍之
金鳳花同



五味子
五味子と云と
枝

五味子
五味子と云と
枝



蔓はくさりの木
刺と葉とら葉
の刺と蔓と云



卷丹
卷丹は花大
色美あり葉も
又大あり一名番
山丹



雞冠
雞冠は葉の
形より葉あり花
数色あり六月
はじり花は
あり



百合
百合は日
夜一各夜合
花と云



金錢花
金錢花は花
黄色あり葉は
嫩みなり一名
子平花



山丹
山丹は花
あり澁丹同



鳩尾いらいち

○鳩尾の葉の形
秋にあらはれた
此の葉は花の葉
羅傘と云ふ



丈菊さかき

○丈菊の一名は
秋陽菊と云ふ
菊の葉は色黄
又と云ふ一名は
陽花



石竹いししやく

○石竹の比磨
の葉は花の葉大
さずの葉は紅
いろあり一名は
暎花



○秋葵の一名は
黄蜀葵と云ふ
その葉は花の葉
さずの葉は花の葉
いろあり

秋葵あきあひ
側金盞かたがねざん同



剪羅せんら

○剪羅の葉は
花の葉と云ふ
多花の葉の天
さ鉄のどじあり



様錦ようきん

○様錦の六月
葉の形は様錦
錦と云ふ九月
葉の形は様錦
葉の形は様錦



鳩尾いらいち

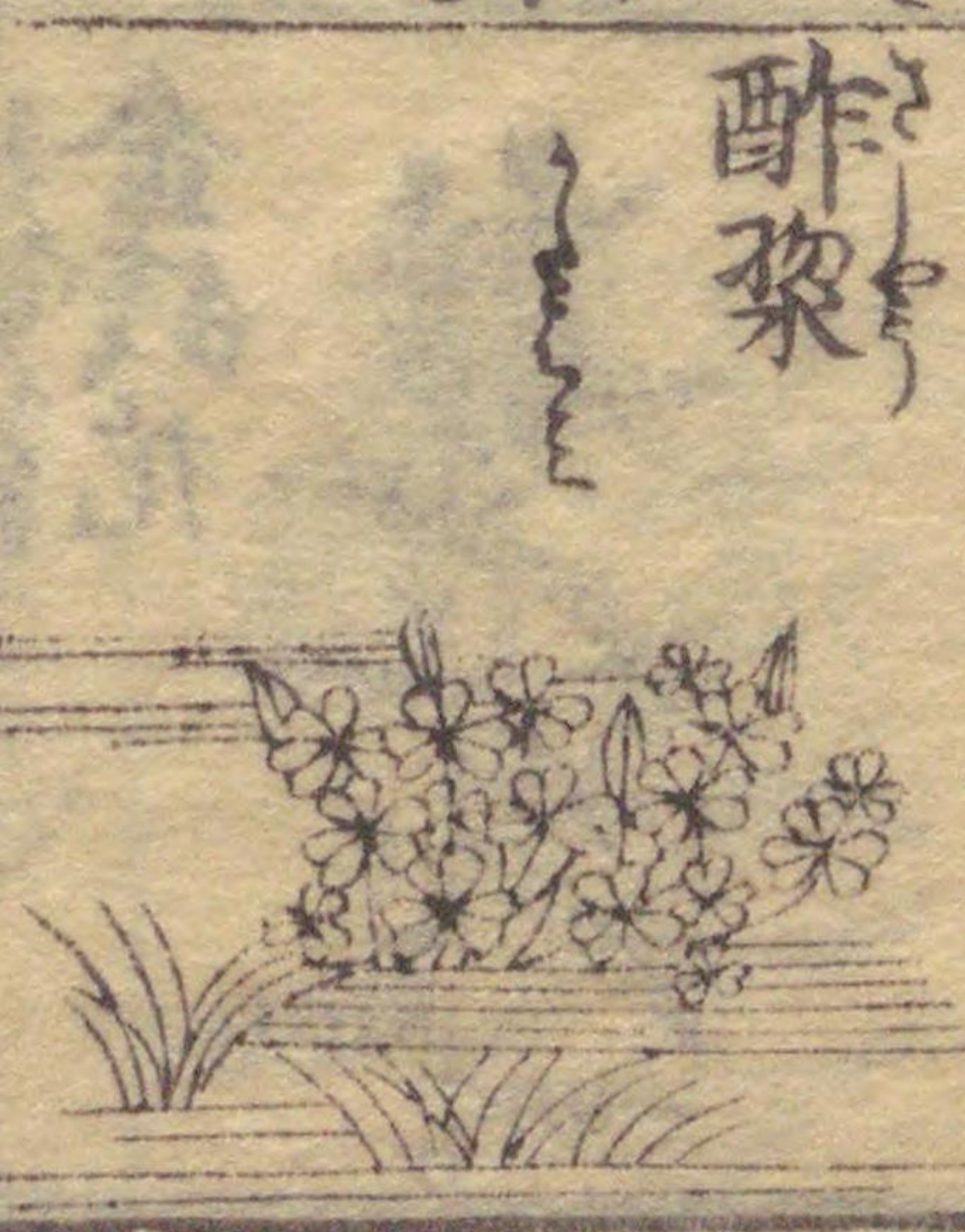
鴨脚花かきつばた
蝴蝶花かちょう

○龍膽の七月に
花のいろは青
花のいろは青
花のいろは青
花のいろは青



丈菊さかき

○酢漿の一名は
酸草と云ふ
その葉は花の葉
いろあり



董菜とうさい

○董菜の一名
龍頭草と云ふ
その葉は花の葉
いろあり



金盞花きんざん

○金盞花の花は
四時子あり
盞のいろは黄
色あり一名は
暎花



剪羅せんら

○水仙の花は
盆のいろは白
まらや葉は
いろあり



様錦ようきん

○牽牛の葉は三
つりて花のいろ
のいろは白
花のいろは白
花のいろは白



茵蔯 いんじょう
 ○茵蔯 いんじょう 葉の
 うつろくもくもく
 九月にやそ花
 ひく黄色



春菊 はるきく
 ○春菊 はるきく 花黄
 白して大あり
 蒿菜花とよみ
 玉簪 ぎょくざん



玉簪 ぎょくざん
 ○玉簪 ぎょくざん 葉大
 して掌状
 去七月に花
 長二二三寸
 白鶴 はくかく



鼠麴 ねずみく
 ○鼠麴 ねずみく 花黄
 多花の
 甲れ毛
 実を生て子
 取草とよみ



萍蓬 へいぼう
 ○萍蓬 へいぼう 水
 に生て葉慈姑
 似り水漿
 骨



龍芮 りゅうじ
 ○龍芮 りゅうじ 四月
 にやそ花あり
 花よく美し
 小大とよみ
 各地樹



金燈 きんとう
 ○金燈 きんとう 石
 蒜 しんじ 一名
 燈檠又蔓珠
 沙



石蒜 せきざん
 ○石蒜 せきざん 花の色
 あく 莖は
 枝節とよみ



鼓子 こし
 ○鼓子 こし 花の
 中
 鼓子の
 て鼓子
 又純葛



車前 くるまぜん
 ○車前 くるまぜん 花
 葉あり
 尾花の
 八月に
 茨牛同



山葱 さんそう
 ○山葱 さんそう 一名
 葱
 とよみ



防風 ぼうふう
 ○防風 ぼうふう 五月
 と生て五月
 花
 といとよみ



○積雪 冬に降りて
大竹で錢のこ
とを蒸かす
て使われり
あつた生も

天茄 一名 天茄

○天茄 一名 天茄
粟の小葉茄
にて小の五月の
小白死とひく

慎火 一名 慎火

○慎火 一名 慎火
天の又い
戒火とひく
多と佛中草

○南星 一名 南星
治し身と年
こころのふに
うし又虎掌鬼
藹藹とひく

牛膝 一名 牛膝

○牛膝 一名 牛膝
治し身と年
こころのふに
うし又虎掌鬼
藹藹とひく

羊蹄 一名 羊蹄

○羊蹄 一名 羊蹄
治し身と年
こころのふに
うし又虎掌鬼
藹藹とひく



積雪 連錢草 胡薄荷 並同



天茄



慎火



南星



牛膝



羊蹄

○麦門冬 一名 麦門冬
冬にあり
く根よひけあり
実のえりりて
珠のつくもの

茴香 一名 茴香

○茴香 一名 茴香
のぞく腰を
あそむ和名
のこと

杜薔 一名 杜薔

○杜薔 一名 杜薔
薔にありり
此の草を生
歸香土 杜薔

○水蓼 一名 水蓼
頭の苗あり
いしとす口
えいさつる
あり

紫草 一名 紫草

○紫草 一名 紫草
ついで水と利
これと清を
さうにり
一名

虎杖 一名 虎杖

○虎杖 一名 虎杖
通利 瘰癧と
やう湯とあり
つんと利
りるるる



麦門冬



茴香



杜薔



水蓼



紫草



虎杖

番椒
○番椒ハセンシ
と依一由と云
そんまどいん

蕪菁
○蕪菁ハ紫カラ
つらつらして花
白く汁とりのそ
付と一ハ一の毒
野まそれらんを

蒼耳
○蒼耳ハ紫ハ
とびのし風湿
つらつらと云
目とわさるる
あひまどいん

木賊
○木賊ハ目の翳
と云りその積塊
と云りその名と云

紅花
○紅花ハ血と云
かり瘀血のそ
と云り大へん
とつらと云

蓖麻
○蓖麻ハ葉ハ細
の葉乃ち中空
して五まこる秋
花と生し実と
ひまどいん



蛇牀
○蛇牀ハ紫と云
ぐ中とあつら
藤と云い風と云
旭牀蛇粟並同

蒼木
○蒼木ハ脚と云
と云り一温と云
う中とゆつと
山藪と云

苦参
○苦参ハ紫ハ
と云り花ハ黄色
に花の子ハ英を
かき根ハつらつ
水槐地槐同

凡藟
○凡藟ハ一名を
樹藟とも吊藟
と云

玉栢
○玉栢ハ一名
万栢と云り
かた石栢と云
り又玉遂と云

澤漆
○澤漆ハ紫ハ
と云り花ハ
圓くして花と
あつら花と生し
毒草なり



8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8 9 190 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

○蒴藋 杖石の
五葉花白く子
豆く疑豆のじ
くし不さ其と
つりやうりふ



防己 杖石

○防己 杖石
芝のいしと治
一癰ふれて
いと治と解離
そりふ



鳥頭 杖石

○鳥頭 杖石
の頭ろくま
くして合せ鳥
のちらうりふ



石荷 杖石
○石荷 杖石
虎耳草とふ
水湿の比す
鹿耳草とも云
巻栢 いまを



○巻栢 一名と
地栢とふ石同
に生と生は
用ゆきの血とふ
と名れ血と止



石葦 杖石
○石葦 杖石
生と葉皮の
と一勞熱邪
急とつるり
んびやうと治



○縹石 杖石の
あつたにふ
縹の葉とふ
花とくちふ
葉とくちふ



山薑 杖石

○山薑 杖石
美けて死あじ
子、草豆蔻ふ
ひて根ハ杜若
やうり一名姜草



菴芥 杖石

○菴芥 杖石
天蓼れ子に
より毒わり後
云ふ



螺胎 杖石

○螺胎 杖石
鏡面草とふ
石上に生む



馬勃 杖石

○馬勃 杖石
ら木のふに生む
のどれいふと治
とく灰硫牛屎菴
とくわく



石帆 杖石

○石帆 杖石
生と



二王金剛
右と右弼金剛
善と善人の生
王那羅延金剛
剛と左輔金剛
剛と左の断悪
迹金剛も又
佛法守護神
置と三門よ安



持國天王
乾達婆毗舍
關と右の足下
がと守護なる
四天王の第一
增長天王
鳩槃荼菩薩
多と足下
身護したる
四天王の第一



頭書増補訓蒙圖彙卷之九

雜類

諸祖師
散聖のたると

萩草
○萩草の葉ハ
蕪青れこ
花白じつたん
華蔓
○華蔓の花
あつらひた
けまんのか
のこ



石斛
○石斛の石上
生を胃れ
平の皮膚
邪熱と
石遂
他偷
○あつらひた
秋萩の葉
秋萩の葉
くまら



○福祿壽
南星と星の
化現なり頭を
杖に
経と袈裟を
天
○首の花曼荼羅
ひしひとね衣の
ねま垢つと常
月たさせと
やまねも今地
ふしと楽つと
五衰の悲わり



○八百四十年
漏りの貧困と
樽と福肴
摩伽羅神も
大黒天
○衆生に智慧
福とわん
琵琶と弾
楯とて又
音天女も
護した人
○龍の富
那と足下
法東と
安なり西
護した人



○福神なり老人
聖と星の化現
白髪して帽子
とつり杖と
りり居て
○天上の鳥なり
天人の面
声をて
なれと妙声鳥又
好音鳥も
経の
天狗
○増上慢心の都
魔界に入
狐惑と異説多
考へ知
天狐も書



○支那の散聖
他身なり
布の袋と肩
布の袋と
市
○伊井諾尊の
三の神の
西宮
三即
市の貴買
市
○夜叉羅刹と足
下
北方と
天王も
布袋
散聖
他身なり
布の袋と
布の袋と
市
伊井諾尊の
三の神の
西宮
三即
市の貴買
市
夜叉羅刹と足
下
北方と
天王も



誕生釈迦

○卯月八日真の
越誕生したまふ
七歩あるとほま
と下りて天上天
下唯我獨尊との
たまふ

山越如來

○廬山横川のミ
孫彌陀の九容
と現したまふと
惠心僧都拜
多ひて馬も多
ふと

初祖達磨

○梁の武帝に
まゝ江とけり
魏の少林寺に
入たふ世に其
葉達たふハ一
葉達たふもい

聖徳太子

○太子十六歳の
五宮入り入王元
二代用明天皇の
皇子四十九歳二
月廿一日入滅
日本佛法の初
傳教大師

傳教大師

○最澄も云日
本天台の開祖
延暦元年入唐
五十六歳六月四
日入滅傳教大
師ハ初り号

龍猛菩薩

○南天竺に出生
釈尊より八百年
後真言宗乃
初祖大日經
金剛頂經蕪悉
地經と弘たふ

誕生佛



山越彌陀



達磨



太子



傳教



龍猛



出山釈迦

○佛三十歳の九時
二月八日明屋の
出るに廓然大
悟と云り正覺と
成れたまふ

維摩居士

○浄名居士五ノ介
に拂ふと持
が文の内に八方の
師みの坐とあり
三千の大衆と入て
法門と云る

傳大士

○善惠大士又八東
陽大士も二童
子ハ其子なりと
ひろけらる普成
指さるハ普建
又梁の人なり

天台大師

○陳隋二代の國
師唐土天台宗の
開祖十月廿四日
六十歳入滅
智者大師をい

元三

○諱良源康保
三年天台座主
多り又天僧兵
花山院寛和三昔
三月寂と慈惠大
師ハ初り号

弘法大師

○諱空海延暦
三年入唐かり
日本真言宗の開
祖六十二歳三月
廿一日入滅弘法大
師ハ初り号

出山佛



維摩



傳大士



天台



元三



弘法



行基菩薩
 ○泉州の人百濟王の胤より日本大僧正の初め聖武天皇の時に八十二歳二月二日寂
善導大師
 ○唐土長安の龍より出現し三十余年の睡眠せり唐永隆二年三月十四日化
法然上人
 ○諱ハ源空作州の人浄土宗の開祖善導を夢中の相承あり順徳院の建暦二年正月五日入滅



源空



善導



行基

役行者
 ○役小角元々和州の人葛木山に入て孔雀明王の法と依り母と許入て唐土に入
親鸞上人
 ○諱ハ善信と云花洛の人専修念佛といかり一向宗の開祖弘長三年十月廿八日九十歳
日蓮上人
 ○房州の人法華經を以て諸人と教化し法花宗の開祖弘安五年十月十三日六十歳
 なく武州に寂せり



日蓮



親鸞



行者

六祖大師
 ○唐土より達磨より六祖諱ハ惠能は下より禪宗五家より大鑑禪師ハマア号あり
洞山大師
 ○雲岩の印可の祖師洞山の各悟杖禪師ハマア号あり
道元禪師
 ○日本曹洞宗の開祖越前永平寺の開山貞應二年入宋建長五年八月廿八日寂心あり



六祖



洞山大師



道元

臨濟大師
 ○黃蘗の沖可の諱ハ義玄濟家の祖師臨濟院の名惠照禪師ハマア号あり
榮西禪師
 ○日本臨濟宗の開祖花洛東山建仁寺の開山文治三年入宋建長元年五月十五日寂
鑑真和尚
 ○唐土廣陵の人孝謙天皇の時來朝日本律宗と稱しといかり南都招提寺の開山七十七歳寂せり



臨濟



榮西



鑑真

孔子

○孔子周の代の人
堯舜の及といひ五帝と
並びて文宣王と
云儒宗の大聖人
なり



寒山子

○唐の太宗の代
天台山に隠れ
拾得と法名を
ていふ去来と
ちご文珠の化
別なりと云



拾得子

○豊干禪師の
まうたに拾ひ得
たる故拾得と云
常に寒山と仲
つるその終とをも
て賢の應なり



費長房

○後漢の代の人
仙術とえて常は
棄てて飛行せり
又下令威もい
へり



上利劍

○仙人の劍と
乘りて飛行せり
上と花行と云
術と云なり



遊平

○りりり金華
山に住仙人に
白石に向て叱り
とて白石數千
百の羊となり
乃てなり



孔子

老子

○周の代の人
白髮なり道
經五技言と云
一無為自然の
と云たの道士の
大進なり



大公望

○尚文と云り
濱に坐して樂
むる隱士なり
周の文王の賢
あり師とたす
曰此王に無と
許由



許由

○堯の君位とゆ
つんとりたし
てその耳洗れ
たりと潁川の
に墜り耳とわ
り賢人なり



琴高

○神仙の術と
上と飛行し書
と云たる仙人
なり



蝦蟇仙人

○仙人のつら
蝦蟇と教へ
て其名と云
り



鐵拐仙人

○仙人の虚空
に居りて己
形と云るを
仙術と云り



20326

わ031
36
8止

如今訓蒙圖彙者以假名字加頭書
艾繁補闕便於童蒙且亦雜類一
篇新添者也

千時元祿八^{乙亥}孟春穀且
書肆
版開



国立国会図書館 頭書増補訓蒙図彙 21巻 わ031-36

ガラス使用